

子どもたちの作品集



色々な素材を使って、思い思いに表現する画伯たち…

編集後記

おいもほり前は子どもたちから「おいも」という言葉はあまり聞かれませんでした。おいもほり後はさつまいもご飯やスイートポテト、焼き芋等のさつまいも料理を見て、「おいも!」と嬉しそうに話す姿がよく見られ、改めて食育の大切さを実感しています。さつまいも以外の野菜でも出来たら、子ども達も喜んでくれるだろうなと思いました。(広報委員 滝川)

麻布乳児院だより 第7号

令和6年1月1日発行

発行：麻布乳児院

東京都港区南麻布5丁目20番5号

編集・印刷：勝田印刷株式会社

デザイン：牛木良

Azabu infant home

麻布乳児院 だより

広報1月1日
Vol.07

〒106-0047 東京都港区南麻布5丁目1番20号 TEL: 03-3446-5361 Mail: keifuku-nyujin@nifty.com

わたしたちの「理念」

- 個性の尊重
- 心身の健全な発達促進
- 家族や地域社会との連携



五感で季節を感じると…

主な記事

- 1 子どもの声
- 2 乳児職員の座談会
- 3 ほっと・にっこりエピソード
- 4 ボランティアの方への感謝
- 5 子どもたちの作品集

広報誌「麻布乳児院だより」では、社会的養護の元にいる子どもの声をお届けすることを主眼としています。社会の一員として、ともに子どもの声に耳を傾け、一緒に考えていきたいと思っております。

child's voice 子どもの声

日々、子どもたちがどんな風を感じているか。
子どもからはどんな風に見えるか、
私たち養育者は子どもたちに寄り添って、
「子どもの声」を感じ、探求しています。

「みんな仲良し」

0歳の乳児の声

- Aちゃん：つかまり立ちの練習！
でもここからどうすればいいんだろう？
- Bくん：上手にできたね。つたい歩きは得意だから、
僕がお手本を見せてあげる！

子どもの様子

それぞれ主張が出来るようになってきたドナルド室の赤ちゃんたち。
使いたいおもちゃがあると、「僕（私）も使いたい！」と取り合う場面が見られるようになりました。Cくんはお友達の使っている玩具が気になるようで果敢に取りに行き…。Bくん Aちゃんも負けじと！両者譲らない可愛らしい攻防戦が繰り広げられます。最後にはみんなで仲良く音楽鑑賞をしていました♪

また、お互いが刺激し合う中で、Bくんのつかまり立ちやつたい歩きに憧れる Aちゃん。最近では毎日つかまり立ちの練習を頑張っています。日に日にできることが増え、毎日驚いています。

ドナルド室 大山

「お花きれいだね」

1歳の子どもの声

- Dくん：「みて！みて！お花とはっぱ、いっぱいあるよ！」
- Eちゃん：「ほんとうだ！きれいだね〜」

子どもの様子

たまに関わり方が強くなってしまふけれど、お友達との関わりを持ち始めたリス室の子どもたち。少しずつ話せる言葉も増えてきたので、子どもたちなりにコミュニケーションを楽しむ姿が見られます。

この日も、Dくんが「はっぱ」や「おはな」と言って指差した

花壇の花を Eちゃんが見ている、Dくんの気に入った花を共有しているようでした。養育者が声掛けをしたり、子ども同士の関わりを仲介して、お友達とコミュニケーションを楽しめるようにしています。

リス室 中村

「こんなことやってたな〜」

2歳の子どもの声

- Fくん：「こうやってたな〜ちよきちよき」
「どうやって動かすのかな〜」
- Gくん：「こうたいこうたい」
「つぎはちよきちよきぼくやるからね〜」

子どもの様子

数日前に美容師さんに散髪してもらいました。お部屋にあったハサミのおもちゃを見て思い出したようです。おともだちの髪の毛をちよきちよき。髪の毛を切ってもらう子も美容師さんにしてもらっていた時のようにじっと真剣な表情をして終わるまで待っています。普段は少しケンカをしてしまうところですが、順番に美容師さんとお客さんになりきっていました。その時は緊張してしまうことであっても、ひとつひとつが子どもたちにとって経験から成長に繋がっていることが感じられる微笑ましい場面でした。

コグマ室 吉田

「思い思いに」

3歳の子どもの声

- Hちゃん：「新しいお洋服大好き！
どれにしようか迷っちゃう・・・♪」
- Iくん：「今日のパジャマはこれにしたよ！
お風呂入ります〜！」

子どもの様子

お洋服が大好きな3歳のHちゃん。着替えをする時は自分の引き出しの中から好きな洋服を選んで着ています。寒くなり長袖を用意すると、目新しい洋服に大喜び！毎回「どれにしようかな〜♪」と言いながら自分で選ぶことを楽しんでいます。

夜、お風呂に入る前もスヌーピー室の子どもたちは着たいパジャマを自分で選んでいます！思い思いに自分で選ぶ姿に成長を感じるとともに、子どもたちの好みや自主性をより大切に育てていきたいと感じます。

スヌーピー室 杉山

乳児院職員 の 座談会

「私と乳児院 40年の歩み」

昭和～平成～令和の時代まで、乳児院を取り巻く環境も大きく変わってきました。今回、勤続年数が40年を超える3名の職員の方に当時の出来事に想いを馳せてもらい、これからの乳児院への想いも語って頂きました。



高橋さん

高須さん

松井さん

- 高須さん : 新卒から栄養士として厨房室、調乳室に配属。
 高橋さん : 新卒時は保育士として2号に配属。養育総主任を経て、昨年より副院長に就任。
 松井さん : 新卒時は保育士として3号に配属。
 15年前から家庭支援専門相談員として相談業務を担う。
 (※3名が就職された昭和58年頃は定員が110名で3つの棟(1号、2号、3号)に分かれていました)

麻布乳児院が大舎制だった頃の思い出

- 遠足の時は、家で自分と子どものお弁当を作って行ってたよね。
 ウイナーとか卵焼きとか、おにぎりとか。早起きしてね。
 運動会の時だって、養育者にも「お弁当チーム」として一緒に作ってもらってたよね。私、遠足も荷物持ちとして一緒に行ってたよ。
 えー！高須さんも？(笑)
 この日休みでしょって言われて、休みの日に動物園や子どもの国に一緒に行ったよ。
 乳児院を建て直すってなって、寮を子どもたちの仮住まいとして過ごした時もあったよね。そういえば、ミルクは鍋で温めてたんだよ。
 そうそう大きなガスコンロに、マッチで火を付けて。鍋で温めると時哺乳瓶が倒れちゃって、ミルクがお湯に流れちゃったりして。
 あ～そうそう！お湯加減も難しかったよね。空焚きになっちゃうかわないように、お湯の量に気を付けないといけななし。ミルクがまだ温まらないとか、熱くすぎたとか、大変だったよ。そういえば夜勤中、泥棒が入ってパトロールのお巡りさんに色々聞かれたこともあったよ。

- 今は使い捨てだけど、診察の時に使っている舌圧子も銀製だったから、夜勤で煮沸してたよね。
 昔は布おむつだったからさ。だんだん吸水性も無くなっていくから、買いに行ったりしてね。布オムツをセットにするのも大変で。布おむつを何人も替えるのも、腱鞘炎になるのよ。
 当時は110人子どもがいたから、洗濯物がすごい量だったよ。夜勤の時も大量の使用済おむつを洗濯場に持って行くのよ。真っ暗闇の中、外の渡り廊下出て持って行くの。夜勤中3回も。
 食事は食堂に皆で集まってわいわいガヤガヤして、朝、昼、晩と食べたよね。そんな時代もあって、今の建物があるのよね。



麻布乳児院に就職した経緯

- 専門学校での調理師が、乳児院の事務もやってたの。それで、自分が栄養士の資格を取った時、ちょうど栄養士も募集してて、もう3月から働いてたよ。
 私は、きっかけって言うのはそんなになくて。保育士として東京で就職したかったのと、保育園よりも乳児院の方が子どもとじっくり関われるかなと思ってたから。当時、沢山保育士を募集しててさ、私も3月から働き始めたんだよ。
 私は、当時の乳児院の院長が、母校の専門学校で授業してたからっていうのもあったし。私の母が「施設で子どもたちのお母さんみたいになるのも良いんじゃない」って言ってくれたのも、一つのきっかけかな。

新人の頃、苦労したことも

- 私は就職した当時、「ここでは3ヶ月も続けれない」と思ってすぐ辞めようと思った。就職した当日、職員が事務所で「休みが取れない」ことを怒ったりして。あの頃はね。
 新卒の頃、子どもを連れて嘱託医の診察を受ける時があったけど、緊張してしまって。「こいつ全然だめ」って嘱託医に言われちゃってショックだった。自分が配属された3号さんは結構怖い先輩も多かったのよ、派閥もあったし、当時はそういう時代だったのよ。よく乗り越えたなあ。

大変な時代を経て、長年勤務を続けて来られたこと

- 乗り越えられたのは、同僚がいたからかな。当時は調乳も養育者も一斉に17時とかに勤務が終わってたからさ。アフター5に同僚とボーリングやプール、ディスコやスナックに行き話聞いてもらってさ。私、一滴もアルコール飲めないのに。夜中に乳児院のロッカー室に戻って、こたつで皆で雑魚寝して、朝また勤務するの。懐かしいな。
 野球とかも見に行ってたよね。私は専門学校が一緒だった高橋さんが同期だったから、ここまでやってこれたかな。
 私は違うかな(笑)。乗り越えられたというか、新人時代は大変なこともあったけど、そういうものかと思ってた。子どもも沢山いたし、職員の人数が足りない時代もあったから。ひとまずやるしかない。休めなかったしね。
 そうよ、だってここに子どもたちが待っていてくれるんだもん。熱が出ても、とりあえず這ってでも来てたわよ。
 就職する前、福祉の世界はボランティア精神が無いと働けないって言われてたんだよ。だから仕事を家に持ち帰ってやってたし、今みたいな色んな休暇も無かったよね。



- 実際に子どもたちも多かったから、インフルエンザの時期なんて大変だったよね。子どもたちが皆熱出したから、夜勤で順番に検温するだけで、またすぐ次の検温の時間が来ててさ。だけど、担当の子どもたちと遊んだり、何より「子どもたちの為に」って思ってやってきたんだろうな。
 大舎制だった時代から今のユニット制になって。日勤の時間が長くなったから子どもと過ごす時間が多くなった。ユニット制になって良かったことは、子どもたちがぐんと落ち着いてきたのを見て、良かったなと思ったよね。
 大舎制の時は一気にオムツを替えたりしてたけど、今みたいにユニット制になったことで一人一人に合わせられるようになったよね。じっくり対面で、目と目を合わせてさ、「今何を求められているか」を感じられるようになった。子どもたちから沢山求められることも増えたけど、それが愛着として積み重なっていったらと肌で感じたな。



子どもたちの思い出の数々



担当した子どもたちは数えきれないくらいいて、当時すごく小さく生まれた赤ちゃんが、大学生になったと報告してくれたり。他にも、麻布乳児院で実習して保育士の資格取った子もいて。結婚した後もおさんと一緒に遊びに来てくれた。実際、そういう子どもたちがいたから頑張れたのかな。児童養護施設と比べて、乳児院にいる期間って短いから、将来私たちのことは忘れてしまうかもしれないけど、その時期に培った時間って大切だなんて。



(くすくす…)。ごめん、何かすごく真面目に話してるから(笑)



私は40年無遅刻無欠勤!お休みの日も、ボランティア扱いで担当した子どもと出掛けたりして。大舎制であっても1対1の時間を大切にしていた。そうよ、私アメリカまで、2歳の子も連れて行ったよ。身体の大きな子をオンブして、児童相談所の職員1名と他の兄弟も連れて。飛行機の席が、その2歳の子どもの分がなくて。私とその子で一つの席に座って行ったのよ。



私、厨房の小窓から見る食堂の食事風景がすごい好きだった。調理は1階で3人、調乳は2階で2人でやってた。子どもの人数も多かったから大変だったんだよ。ミルクを作り終わると、6面の大きな冷蔵庫の中に入り込んで壁を掃除して。終わるとすぐ1階に手伝いに行ってきた。



これからの乳児院の未来に向けて



どの職員もまずは健康!あと、自分にも子どもたちにも優しい気持ちで過ごして欲しい。

とにかくストレスは貯めずに発散!でもさ、子どもが乳児院にいる期間って本当にわずかだから、一瞬を大事にして欲しいな。子どもたちの愛着形成の根っこ大切なところだからさ。今の社会的養護の流れは、“施設より里親”、“ショートステイでの親子支援”にシフトしていると感じるけど、これからの乳児院を担う人たちに、そういった支援も盛り上げて行って欲しいなって思う。



ほっと にっこり エピソード episode vol.2

麻布乳児院では、「ほっとにっこり」情報の記入をしています。日々の「ヒヤリハット」もしっかりと記入、振り返りをしているのですが、それ以上に「ほっとにっこり」な出来事も沢山あります!!今回は、2023年に出たほっとにっこり情報の中からとっておきのエピソードをここにまとめました。

※ヒヤリハット：ケガや事故にはならなかったものの、ヒヤッとしたり、ハットした出来事を速やかに共有して対策を検討していく報告書
※ほっとにっこり：思わずほっと和んだり、にっこり微笑んでしまうエピソード、素敵だなと思う養育者の言葉掛けや対応など、あたたかい場面を皆で共有するもの

子どものエピソード

クレーンゲームが始まったばかりの赤ちゃんが養育者の声掛けにたままたタイミングよく「あー、うー」と言った際、養育者みんなで「〇ちゃん、お返事したの?すごいねー!」と盛り上がる瞬間がほっこりして好きです。



歩けるようになった女の子。養育者が「あんよおいでー」と呼ぶと、お友達がその子どもの傍に行き、手を繋いで立たせてあげ、養育者の所まで支えて連れてきてくれ、ほっこりした気持ちになりました。



オンブが好きな男の子。「おんぶー」と言いオンブして欲しいとアピールをしたり、オンブひもが入っている引き出しを開けて取り、養育者に渡してくれます。いつも入っているはずの引き出しにオンブひもがないと真剣に探していました。



食べることが大好きな男の子。おせんべいを手に握りしめていた事を忘れていて、ふと気が付いておせんべいを見つけた時の満面の笑みと、“あったよ”と養育者の顔を見て嬉しさを共有してくれた時の表情がたまらなく可愛かったです。職員同士で「かわい〜」と声を上げてしまいました。



高い戸棚に何があるか確認していた時、何が入っているかよく見えず、後ろに下がりながら背伸びをしていると、その様子を見ていた子どもが同じように後ろに下がり背伸び!「ないねー」と一緒に見ていたのを見て、笑ってしまいました。



絵本を繰り返し読んでいると、子どもたちも楽しんでくれるようになりました。【だるまさんと】という絵本のフレーズを真似、「う〜ん」で震えるほど身体に力を入れ、「ぱっ」で手をパーにし、「たー!びー!」(やったーピース)と言ってピースサインをする姿が可愛くてたまらないです。



座談会を終えて

座談会では終始、笑いが巻き起こり、お三方が激動の時代を共に歩んできた絆を感じる時間でした。大変な時代を経て様々な想いを抱えながらも、まず一番は子どもたちの為にどうして乳児院を守って来て下さったことに改めて感銘を受けました。

(見届け人：広報 首藤)

みんなでお芋掘りに 挑戦! Les't TRY!!

旬の食べ物に触れて季節を感じて欲しい、
自分たちで収穫したものを一緒に調理しみんなで食べる
経験を通して食を楽しんで欲しい、食材からの変化に
気づいて欲しいなどの思いから、お芋ほりを実施しました!



1歳の子どもたちは1人1個のさつま芋を掘り、
2歳以上の子どもたちはいくつもお芋の付いた株
を1人1株抜くことにも挑戦しました!土を触るこ
とに抵抗を見せる子、積極的に掘っていく子など
色々な姿がありました。さっきまで土を触るこ
とを嫌がっていた子が気付くとバケツに入れて大事
そうに持っていたり、他の子が見つけたのを見て
自分も!と挑戦したり、見つけた時は「あったー!」
と嬉しそうな顔をしていたりとたくさんの表情が見
られました。なかでも、1株となるとなかなか抜
けず苦戦していた子が、お友達と協力しながら引
張り力を合わせて抜く姿には成長を感じました。

お芋が掘れた後はお外で遊びたい子どもたちはそ
のまま外遊び、料理をしたい子どもたちはお芋ご
飯を作るために洗ったり養育者と一緒に包丁を
使って切ることにチャレンジ!とそれぞれがやりた
い事を楽しみながら出来たことは良かったと思
います。

数日間、おやつ時間にスイートポテトを作
ったりさつまいもチップスを作ったりと日常の中で
みんなで掘ったお芋を調理して食べる経験がたく
さんできました!

「いつもならお芋は食べないけれど、チップス
はよく食べました!」という養育者の言葉や、会
うと「お芋ある?」と聞いてくる子どもたちの言葉
で食育の大切さを改めて感じ、こういった機会が
もっと増やせたらいいと思いました。

(養育支援指導員 金本)

ボランティアの皆さまへ 感謝! Thank You!!!

ボランティアの皆さま、
いつもありがとうございます!

抱っこボランティア

きっかけ

自分がお母さんになるかもということが目の前に迫ってきた時、その大変さを強く実感してしまいました。その経験から漠然と、大きなことは出来ないけど何か世の中のお母さんの役に立つことが出来たらいいなと思い始めました。また、ひたすら赤ちゃんが大好きで、赤ちゃんの遊び相手が出来るとボランティアをしたいとも。さらに、保育士の勉強も続けたかったので、そんな場所を探していたところ、受け入れて下さったのが麻布乳児院さんでした。

楽しい、おもしろいと思うとき

挙げればきりがありませんが、やっぱり子供たちと向き合っている時が至福です。先生方の会話も子どもたちの話題が満載で、ほんとに楽しい。抱っこも大好き! 最近年のせいでも腰痛がみですが…ずっと続けていきたいです。

印象に残った出来事

コロナ禍以降、マスクをしてボランティアをするようになりました。たまにしか伺わない私がマスクをしていたら顔も分からないし、赤ちゃんが怖がらないかなと不安でしたが、いつも同じエプロンをしていると、なんと、それで覚えてくれている気がします。赤ちゃんの記憶力ってすごいですね。



15年近く、
毎週抱っこボランティアに
来て下さっている
仁田尾さんにお話を伺いました。

ヘアカットボランティア

乳児院訪問のきっかけは、乳児院で働く先生がお店のお客様だったことです。お子様たちのカット事情や施設の説明をお聞きし、お手伝いをさせていただくようになりました。私たちのお店は地域密着型ということもあり、お子様のカットが多いのですが、乳児院さんで切らせてもらうようになってからよりお子様への対応力が増し、今では強みとなっております。

カット中はYouTubeを見せながらと対応はさまざまですが、カットのスピードはいつも意識させています。先生に抱っこされながら切っていた子が一人でお座りしながら切れるようになるなど、成長を感じられ私たちが嬉しくなります。自分たちの職業がどなたかの役に立てるのは非常に幸せなことです。

そして可愛いお子様たちが少しでも快適でおしゃれに過ごしてもらいたいという気持ちです。何より可愛いお子様たちに私たちが癒されています。先生方はじめお子様たちもとても暖かく私たちを迎えてくれます。今後も皆様が少しでも快適に過ごしてもらえるよう続けさせていただきます!



美容室 Beach の皆様が
子どもたちのヘアカットに来て下さっています。
代表してスタイリストの山本さんが
インタビューに答えて下さいました。

